

## 曼珠沙華と公園を歩く

真っ赤に燃える曼珠沙華（彼岸花）があちこちで群生していた。まるで絨毯を敷き詰めたように華やかであった。秋の到来である。曼珠沙華の花言葉に「情熱」があるが、まさに見るからにそう思える。もともと曼珠沙華はサンスクリット語（古代・中世のインド周辺の言葉）で天界に咲く花との意。おめでたいことが起こる兆しに赤い花が天から降って来るといふ仏教の経典からきている。

岡山県総社市の岡山道総社インターから約10分の所に、水と緑に恵まれた鬼ノ城山の山裾に曼珠沙華を望みつつ砂川公園はあった。公園内の中央を整備された川が流れ兩岸には炊事棟やトイレが完備。夏休みともなればキャンプ場をはじめ、公園内はバーベキューの香りで包まれる。2本のウォータースライダーは距離もあり迫力もある。そこを滑る子供たちの元気な水遊びの歓声が聞こえてきそうだ。



私が訪れたのは秋であった。公園は何処となく静かさを演出してくれる。足元には無数のドングリが落ちていた。近くにはハイキングコースもありウォーキングするには絶好のロケーションだ。私もダイエットを兼ねて毎日コンクリートと石畳の上を1万歩(7km)目指して歩いている。今では歩くことが全く苦にならなくなった。ガソリン代が少し減ったことで証明されている。

公園という空間には様々にして人間の体力向上、精神的癒しを与えてくれる。その価値は高い。もっと幅広い人達に日常的に利用されるべきであると願うものである。 撮影 2011 年秋

